

質 問 順 位	1 0	質 問 者	渡 辺 精 郎 議 員	
件 名	項 目	要 旨		メ モ
1. 市長の基本姿勢	1. 市長公約の達成度の自己評価について	1. 前田市政の1期4年も終盤となってきた。公約の「刷新」部分については、6月議会で、手厳しく質した。新聞報道とたきかわ市議会だより8月1日号を市民はしっかり読んでいる。何が正義か、何が間違っているか市民はきちんと判断している。この部分を除いて、様々な施策を掲げて船出した前田丸は、あと8か月で1期目の航海を終えることになる。 この間、重要課題の取り組みと市民ニーズにどれだけ応えきれたか。具体的な施策を挙げて、自己評価をしていただきたい。		
	2. 「不一致課題」について	1. 私は前田市政のほとんどは容認してきたが、「刷新」問題とともに不一致課題がある。それは、公共工事の大切さは当然で、幸町コミセン付近から泉町に抜ける約640m程度の近道の街路工事はあり得るであろう。ところが、問題は付近の原野のような荒れた土地も含めて開発するということで、4億円以上をつぎ込み、私有地を順次開発するところに無理は生じ、整備した土地に工場や住宅を誘致するという構想については、市民の理解は得られないと思う。 莫大な工事費をかけて整備した土地に企業や住宅を誘致し呼び込むことは、財政に対するリスクが大きく、結果的に開発工事費を押しつけられる企業や一般住宅の進出も無理で、あり得ないと考える。市民の理解を得られないこの工事の全体計画を見直し、約640m程度の近道街路だけの単独事業にすることが市民の理解も得られやすいと考えるがいかがか。		
2. 人口増加策	1. 人口減少を止めるための「空き家」政策について	1. 人口減少の対策について6月議会で何人かの議員が質した。その答弁と関連すると思うが、「空き家」（住み替え支援）情報を広域で取り組むという広報たきかわとともに回覧で回されている文書があった。大変重要で、しかも市町の壁を越えて「空き家」の状況がわかるということは有意義である。 しかし、文書は回覧しているが、アピールが足りない。新聞記事になってしかるべき案件ではないか。現在、家財道具はそのまま、長期間空き家になっている家があまにも多い。 広域の長所を活かした久しぶりに良い施策だと感じる。問題は、「空き家」の持ち主にどのように伝えるのが課題である。空き家を上手に利用し、持ち主の理解を得て、人口増加の一翼になるための決意のほどを求めたい。		

質問順位	10	質問者	渡辺精郎 議員	
件名	項目	要旨	メ	モ
3. 観光行政	1. 「日本で最も美しい村」の成功はラベンダーで決まる	1. 江部乙地区が「日本で最も美しい村」連合に加盟するということで、その組織の副会長の講話を聞いた。その方の話では、風景も当然であるが、その地域の食育とかグルメも大切で、要するにその土地処の名物となる食べ物、それを支える作物や農業の大切さを説いていたのが印象的であった。 「日本で最も美しい村」のパターンが決まったものでないようですから、江部乙地区の良いところをしっかりと打ち出すことが必要だと感じました。 そこで、私は「ラベンダーを滝川に」と12年ほど前から議会で提案をしている。受け入れていけば、「ラベンダー」の花が夕日に映える江部乙の西斜面に咲き誇っている頃でしょう。菜の花の終わった後の「日本で最も美しい村」にふさわしい風景ではないでしょうか。私の提案を「二番煎じ」と答弁した市長はじめ市の理事者の先見の明の無さが今反省しきりではないですか。「二番煎じ」だからこそ人々は集まってくるのです。今からでも遅くありません。この試みを成功させるカギは「ラベンダー」にあり、富良野・美瑛の成功のノウハウを滝川市が習得してこそこの事業が成功すると思いますがいかがでしょうか。		
4. 住宅行政	1. 住宅表示板の整備について	1. 個人住宅に「住宅表示板」があつたりなかつたりという状態である。「〇〇町△丁目☆番」もあつたりなかつたりである。これらの整備には予算が必要であると考えるが、「なかつたり」を解消するためには、手間暇のかかるこの事業の現状を伺いたい。		

質 問 順 位	10	質 問 者	渡 辺 精 郎 議員	
件 名	項 目	要 旨	メ	モ
5. 教育行政	1. 土曜授業と週休二日制について	1. せっかく「学校五日制・週休二日制」のキャッチフレーズで教育環境が整備され、社会的にも制度や体制が整えられてきた今日、再び「土曜授業」で教育の仕組みが変えられようとしている。 「土曜授業」は、突き詰めると、学力不足論からわが家、わが学校、わが地域が学力不足という観点から再燃してきた問題である。学力の水準とはいかなるものか。学習指導要領で決めている学力水準は正しいのかの検証が必要だと感じる。その学習指導要領に基づいて作られた教科書はレベルが高すぎないのかの検証もしないで、一方的に「学力低下」を嘆く大人社会、つまりは文部科学省の施策にこそ問題の根源があると考えられる。全国のあちこちで、「土曜授業」が増えつつあり、いきなり授業でなく、地ならしに「土曜行事」で登校を促す例もあり、やがて「学校六日制」に戻す動きがうかがえる。 滝川市教育委員会としてはどのように対応しようとしているのか、見解を伺いたい。		
	2. 全国学力テストの結果の学校別公表について	1. 全国学力テストの学校別公表が問題となっている。公表派の人々は、他校と比較してわが学校は低いとか、高いと鼻高々に満足しているのだろう。しかし、全国学力テストでの競争による弊害は 50 数年前に顕著になり、わが県・わが校の得点を良くするために何が起きたのか反省することが大切である。ある学校では、得点の低い子どもは休ませたり、ひどい例では、先生が机の間を解答の紙をちらかせて歩いたことも報告されている。 「あなたの学校は学力が低い」と烙印を押された学校は、苦渋の選択は、このような教育に無用な事件を引き起こすのである。 裁判の中でも、学習指導要領の基準性が問題になり、教育に無謀な「競争原理」を持ち込むことは避けようということも確認されたはずである。 今また、やたらに得点を比べ、競争による学力向上を目指している教育界は、教育の真髄からはずれていると思うが、滝川市教育委員会としては、「未定」ではなく、明確に「公表しない」と決定すべきと考えるがいかがか。		